

- 問1 南アメリカ州の2か国の輸出構造を比較したとき、ベネズエラは輸出総額の約85%を原油、約13%を石油製品が占めており、輸出のほぼすべてが石油関連となっています。このようなベネズエラの経済状況が抱える課題として、最も適切な説明を選んでください。（2017年 岩手県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 輸出品目の多様化が進んでいるため、資源の枯渇に備えた新しい産業の育成がすでに完了している。 | 2. 農産物・鉱産物・工業製品をバランスよく輸出しているため、特定の品目の価格が下落しても影響が少ない。 | 3. 特定の資源に輸出の大部分を依存しているため、国際価格の変動が国内経済に大きな影響を及ぼしやすい。 | 4. 工業製品の輸出割合が極めて高いため、原材料となる原油を安く輸入できるかどうかが経済の鍵となっている。 |
|--|--|---|---|
- 問2 南半球の西側に位置し、日本から見て地球のほぼ反対側にあたる大陸の自然環境について述べたものとして、正しい記述を次の中から選びなさい。（2018年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--------------------------------------|---|
| 1. 大陸の東側にグレートディバイディング山脈があり、乾燥した土地が広がっている。 | 2. 大陸の西側にロッキー山脈が走り、中央部には広大なプレーリーが広がっている。 | 3. 大陸の西側にアンデス山脈が連なり、低地にはアマゾン川が流れている。 | 4. 大陸の北側に広大なサハラ砂漠があり、世界最長のナイル川が北に向かって流れている。 |
|---|--|--------------------------------------|---|
- 問3 1ヘクタールあたりの穀物生産量を比較したとき、日本の穀物生産量が約1,183万トン、農地面積が約500万ヘクタール（1haあたり約2.3トン）であるのに対し、ブラジルの状況を説明したものとして適切なものはどれですか。なお、ブラジルの穀物生産量は約42,154万トン、農地面積は約40,581万ヘクタールであるものとします。（2024年 秋田県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1. 1haあたりの生産量は約1トンであり、日本よりも少ない | 2. 1haあたりの生産量は約2.3トンであり、日本とほぼ同じである | 3. 1haあたりの生産量は約100トンであり、日本よりも圧倒的に多い | 4. 1haあたりの生産量は約10トンであり、日本よりも多い |
|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------|
- 問4 オーストラリアの穀物生産において、1980年から2000年にかけての推移を調べると、収穫面積は約1600万ヘクタールから約1800万ヘクタールへとわずかな増加にとどまっています。一方で、総収穫量は約1640万トンから約3540万トンへと2倍以上に増加しました。このデータから読み取れる、オーストラリアの農業における変化について述べた説明として最も適切なものを選びなさい。（2016年 三重県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 収穫量と収穫面積が完全に比例しており、技術革新の影響は見られない。 | 2. 収穫面積の増加率が収穫量の増加率を上回り、土地の利用効率が低下した。 | 3. 一ヘクタールあたりの収穫量である土地生産性が大幅に向上した。 | 4. 収穫面積が大幅に縮小したため、農作業の効率化が進んだ。 |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
- 問5 世界の諸大陸の気候帯面積割合を示した資料において、ある大陸は熱帯が16.9%、温帯が25.9%であるのに対し、乾燥帯が57.2%と過半数を占めているという特徴があります。この大陸の名称と、その自然環境を活かした産業の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2021年 茨城県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. ユーラシア大陸 — 乾燥帯の面積が非常に小さいため、全域で季節風を利用した稲作が行われている。 | 2. オーストラリア大陸 — 乾燥に強い羊の放牧が、掘り抜き井戸などを利用して大規模に行われている。 | 3. 南アメリカ大陸 — 温帯の面積割合が最も高いため、パンパと呼ばれる草原で大豆の栽培が行われている。 | 4. アフリカ大陸 — 全域が熱帯であるため、赤道付近を中心にカカオなどの商品作物の栽培が行われている。 |
|--|--|--|--|
- 問6 ある都市の雨温図の統計資料において、月平均気温を示す曲線が7月に向けて下がる「谷型」の形状を示しており、年平均気温が16.3度、年降水量が1528.8ミリであるとしします。この統計に該当する都市として、最も適切なものを次のうちから選びなさい。（2019年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------|-----------|---------------|--------------------|
| 1. 東南アジアのシンガポール | 2. 日本の東京都 | 3. 南米のアマゾン川流域 | 4. ニュージーランドのオークランド |
|-----------------|-----------|---------------|--------------------|
- 問7 ブラジルの都市であるリオデジャネイロで2016年に開催された夏季オリンピック・パラリンピック大会に関する記述として、地理的な背景を踏まえて最も適切なものはどれか。（2024年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. この大会は、2021年に開催された東京大会よりも後に実施された南半球の大会である。 | 2. この大会が開催されたブラジルは、北アメリカ大陸に位置する最大の国家である。 | 3. この大会は、南アメリカ大陸で初めて開催された夏季大会である。 | 4. この大会は、アフリカ大陸で初めて開催された夏季大会である。 |
|--|--|-----------------------------------|----------------------------------|
- 問8 オーストラリアの気候区分の割合を示した統計において、国土面積の約75パーセントという広大な範囲を占めている、降水量が極めて少なく樹木の生育が困難な気候帯を何といいますか。（2026年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 乾燥帯 | 2. 温帯 | 3. 寒帯 | 4. 熱帯 |
|--------|-------|-------|-------|
- 問9 南アメリカの多くの国々において、共通してスペイン語が公用語として話されている歴史的な背景を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛媛県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---------------------------------------|
| 1. かつてスペインから多くの人々が移住し、先住民を支配して植民地としたため。 | 2. 広大な熱帯雨林の環境に適応するため、周辺諸国が協力して新たな言語を作ったため。 | 3. 北アメリカの英語圏との貿易を拡大するために、共通の言語を導入したため。 | 4. もともと住んでいた先住民の言語が、スペインの言語と偶然似ていたため。 |
|---|--|--|---------------------------------------|
- 問10 南アメリカ州の国々のように、特定の地下資源の産出と輸出に経済を強く依存している状況について、その背景と課題を説明した記述として最も適切なものはどれですか。（2023年 栃木県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 地下資源が豊富であるため、加工貿易が発展しやすく、他国からの輸入に頼らない自給自足の体制が完成している。 | 2. 資源の産出量が多いため、世界市場の価格を常に自国で決定することができ、経済が極めて安定している。 | 3. 特定の資源や作物の輸出に頼るモノカルチャー経済の傾向があり、国際価格の変動が国内景気に直結しやすい。 | 4. 地下資源の産出割合が高い国では、例外なくハイテク産業への転換が済んでおり、資源価格の影響は受けていない。 |
|---|---|---|---|
- 問11 1950年代の統計ではイギリスが最大の輸出相手国であったオーストラリアにおいて、近年はアジア諸国が最大の輸出相手地域へと変化した背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. アジア諸国で羊毛や石炭の需要が減少し、それらの資源をイギリスが独占的に買い取る条約を21世紀に入ってから締結したため | 2. イギリスがヨーロッパ共同体（EC）に加盟したことで、それまでの特権的な貿易関係が弱まり、同時に経済発展を遂げたアジア諸国の需要が高まったため | 3. パナマ運河の通行料が高騰したこととヨーロッパ向けの輸送コストが上昇し、地理的に近いアジア市場へ輸出先を切り替えざるを得なくなったため | 4. オセアニア諸国がイギリスとの国交を完全に断絶し、安全保障上の理由からアジア諸国のみと限定的に貿易を行う政策を採用したため |
|---|---|---|---|